

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 アウトリーチ事業 (R8)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail : c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

370 千円 (現計予算額：

0 千円)

＜財源内訳＞

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	370	144	0	0	0	0	0	0	226
決定額	370	144	0	0	0	0	0	0	226

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

アウトリーチ事業では、当館収蔵品を学校に展示する「学校美術館」のみならず、学校や各種団体が希望する「出張授業」や「出前講座」のニーズに応えられるようにプログラムの充実を図っている。そのため、外部教育施設や各種団体からの依頼に十分応えられるよう、講師の出張旅費、ワークショップ材料費、保険料などの予算化が必要である。しかし、「学校美術館」では、作業員人件費と美術輸送専用車の費用高騰が課題となっている。また、遠方の学校で開催するためには、輸送・展示・撤収に2日間かかるため経費も2日分必要となる。そのため現状の予算では、県内全域の小中学校を対象とすることが難しくなる。また、様々な教育普及事業のニーズに十分応えられるだけの物的環境が整っていない部分がある。

(2) 事業内容

○学校美術館-MoMCAが学校にやってきたー

実施校では、当館収蔵作品を展示する。また、実施校のみならず、実施校区の地域の方々にも展覧会を開放し、当館収蔵作品を鑑賞する機会を生み出すことで、当館についての理解を深め、関心を高める場となっている。令和2年度より小学校から新しい学習指導要領に移行し、この指導要領の改訂に伴い、美術館をはじめとした社会教育施設と学校が連携した取り組みが重視されることとなった。

○造形ワークショップ「出張 MoMCAの小さな図工室」

当館で実施している造形ワークショップを館外施設で実施している。特に飛騨地区の施設において多くの利用者が参加し、当館について理解を深めるよい機会となった。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	10	学校美術館打合せ 旅費
消耗品費	11	出張版M o M C A の小さな図工室 材料費
保険料	4	出張版M o M C A の小さな図工室 保険料
委託料	345	学校美術館 輸送・展示作業
合計	370	

決定額の考え方

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【学校美術館】

「学校美術館」を実施し、校内に作品を展示することで、児童・生徒に鑑賞授業の場をもたらし、当館への関心を高める。学校での鑑賞学習を通して鑑賞マナーを学び、美術作品鑑賞への関心を高める。さらに実施学校の地域にも「学校美術館」実施の広報をすることで、当館の取組を理解していただく。関心をもった子どもたちや地域の人々が、当館の企画展・コレクション展に興味をもって来館してもらえるようにする。陶磁器の歴史や作家の優れた作品に触れる中で、地域や陶磁器産業への理解を深め、郷土愛をはぐくむ一助とする。

【出張版M o M C Aの小さな図工室】

館外施設（公立図書館・公民館等）を会場として、誰でも気軽に参加し、造形体験をすることができるワークショップを実施する。当館職員の指導による造形ワークショップを通じて、現代陶芸美術館への関心を深めてもらい、来館意欲の高揚につなげる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
入場者数		106	300	300		%

※目標は1校300人としているが、実施する学校の規模・希望により変動。

○指標を設定することができない場合の理由

（記入用）

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	<p>○取組内容 【学校美術館】 開催期間 令和5年12月7日 会 場 神戸町立下宮小学校 参加人数 児童・職員122名 当館の収蔵品に触れることで当館のことを知り、関心を高め、美術館を訪れて美術作品と出会いたいという気持ちを喚起するきっかけとなる取組となった。</p>
令和6年度	<p>○取組内容 【学校美術館】 開催期間 令和6年10月30日 会 場 七宗町立神渕中学校 参加人数 児童・職員106名 当館の収蔵品に触れることで当館のことを知り、関心を高め、美術館を訪れて美術作品と出会いたいという気持ちを喚起するきっかけとなる取組となった。</p>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	当館のプログラムの体験を通じて当館への関心を深め、来館意欲の高揚へつながっている。
-----------	---

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価) 2	「学校美術館」の体験から当館への関心をもった子供たちが親子で来館することがあった。
-----------	---

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 2	看板・キャプションの設置によって展覧会場らしい雰囲気をつくることができた。
-----------	---------------------------------------

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

「学校美術館」では、作業員人件費と美術輸送専用車の費用高騰が課題となっている。また、遠方の学校で開催するためには、輸送・展示・撤収に2日間かかるため経費も2日分必要となる。そのため現状の予算では、県内全域の小中学校を対象とすることが難しくなる。また、様々な教育普及事業のニーズに十分応えられるだけの物的環境が整っていない部分がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

【学校美術館】

・当館の収蔵作品を直接、間近で鑑賞できる貴重な機会となっており、実施を希望する学校で継続的に実施していきたい。

【出張版M o M C Aの小さな図工室】

・「M o M C Aの小さな図工室」は、当館のスペースを活用して、誰でも、気軽に、短時間で簡単に表現したり体験したりできるワークショップである。この取組について、外部教育施設担当者より、館外での実施要請があった。これに応じ、数か所で「出張版M o M C Aの小さな図工室」を試行的に実施してきた。今後、この取組を当館の教育普及事業の一つとして位置付け、積極的に館外施設で実施し、多くの参加者に当館への理解を深めてもらう機会としていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	